



### 東本願寺撞鐘(梵鐘)

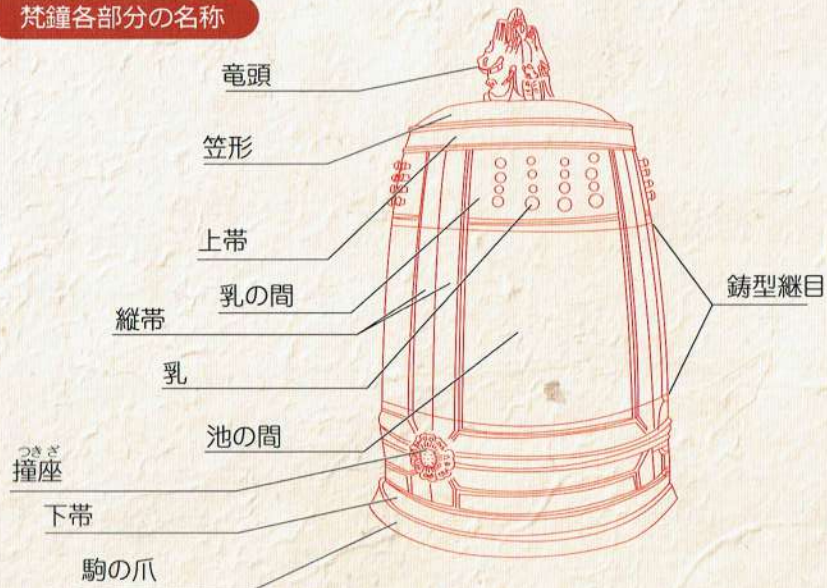
慶長七年(一六〇二)年、徳川家康から京都東六条に寺地の寄進を得た教如上人が、同九年九月の御影堂建立にに合わせて铸造したもので、池の間の各区に一行ずつ「本願寺」「信淨院」「慶長九(甲/辰)曆」「五月廿八日」と陽鑄文字がみえる。

撞座のない従帯二箇所には、各々同文で「大工大坂浄徳」と鑄物師の名が、鐘の内側にも「慶長九(甲辰)年/大坂大工浄徳/五月廿八日」と陰刻される。

大型の梵鐘で、竜頭の方向が撞座に直交する古式であり、池の間四区には飛天と鳳凰図が浮出され、乳の間には一区に五段五列で、上帯にも二個ずつ四箇所乳が配列されて、全部で百八煩惱を現している。撞座は八葉素弁蓮華文で、草の間と下帯には唐草文様が陽鑄される。

東本願寺広報部

### 梵鐘各部分の名称



## 真宗大谷派 東京三組組報

# 縁

えん

### 第3号

発行日 2014年6月30日  
 発行者 東京三組 組報事務局  
 発行所 東京都文京区小石川4丁目13番19号  
 真宗大谷派 東京三組  
 TEL 03-3811-4803  
 E-Mail kbkpm386@ybb.ne.jp

## 梵鐘と私

ほんしやう



東京三組の皆様には、大変いつも門徒会にご尽力をいただき、真宗門徒のつどいには多大に協力をいただいております。文を書くことは苦手ですので、雑文になっていることをおゆるし下さい。

私は四十年来梵鐘の写真をとり、毎年の年賀状にのせており、日本古鐘研究会の会員になっております。

梵鐘は太平洋戦争のとき金属回収令によって供出されました。一説には全国で、およそ五万口が戦時のため大砲か鉄砲玉になったときいたことがあります。

戦後から五十五年たった平成の時代

に、東京三組、小石川の念速寺ねんそくじの梵鐘が太平洋戦争中の昭和十九年に供出されたが幸運にも鑄潰されず戦後埼玉川本町の應正寺に引き取られていました。平成十一年に仏縁により、念速寺に帰山し、再び本堂内に清音を響かせることになりました。

この梵鐘は江戸時代の寶暦八年十二月十二日の銘があり、宗祖親鸞聖人五百御遠忌の時に鑄造とあります。今から二百五十年前の時がながれている梵鐘です。その帰山に関わることができて私は幸せでした。

なお、梵鐘の各部分は左図表にのせました。真宗大谷派の本山、京都東本願寺の古鐘はいま阿弥陀堂の前にあり、慶長九年の銘があります。本山にご参拝の折には、おまいりをお願いします。

合掌

(文/念速寺門徒 佐拔邦一)



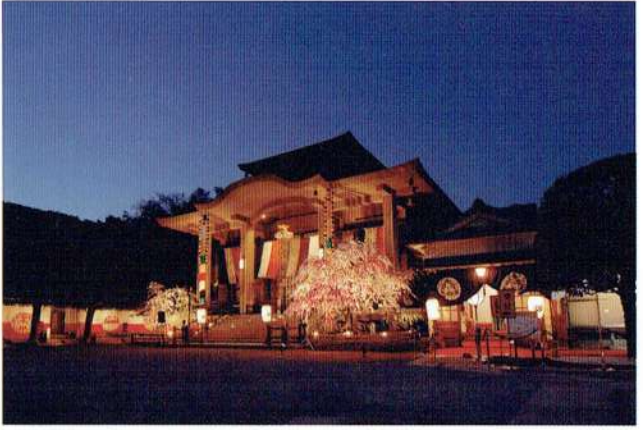
# 東京三組 お寺探訪

## 第三回 本法寺

文京区小日向の本法寺さんへ伺いました。門を入って目に入るのは風格ある大きなご本堂です。戦災によって一度は焼失しましたが、昭和三十九年に再建されました。

本願寺第8世の蓮如上人が文明三(1471)年、江州(現在の滋賀県)堅田新在家に創建された本法院称徳寺(慈敬寺)と号したお寺が始まりでした。その後、寛永四(1627)年、三河大塚へ移り本法寺と称することとなりました。延宝三(1675)年に江戸へ、宝永二(1705)年には現在の小日向の地へ移りました。

本堂内は息を呑むような金色の壁に美しい絵が施されています。中央のご本尊は「作風から室町時代頃製作



かと思われます。」(藤原住職)とのこと。

さて、本法寺さんは文豪、夏目漱石ゆかりのお寺です。夏目家累代の菩提寺であり、明治二十九年、漱石は墓参の折「梅の花不肖なれども梅の花」との句を詠みました。境内には句碑も建てられています。



鉄水鉢臺石。右下写真は几号水準点として刻まれている印

脇玄関の横に大きな臺石があります。(右写真)実はこれは緊急の火災に備えて用意する鉄製の水鉢を受ける台(天水受)でした。その側面に「不」のような記号が彫られています。これは「几号水準点」といい、明治の初めに測量の為に鳥居などの永久構築物に水準点として彫られたものだそうです。全国で現存が確認されているのは100箇所程度と大変少なく、貴重な近代史史料です。

蓮如上人ゆかりのお寺として毎年春には永代経と併せて「蓮師会」法要を執り行っています。

秋には親鸞聖人ご命日のご法要「報恩講」が執り行われます。

(詳細は直接、本法寺までお問合せ下さい。)

素敵なホームページもあります。  
(www.kobinata-honpouji.com)



### Access Data

- 有楽町線「江戸川橋」4番出口より徒歩6分
- 都営バス「飯田橋」より「小滝橋車庫行き」(飯64)、「東五軒町」バス停下車徒歩5分

東京都文京区小日向1-4-15  
tel 03-3941-5316

### 編集後記

約半年ぶりにようやく第3号発行までたどりつきました。いろいろな視点でお寺に足を運ぶ「縁」ができればと思い、左拔会長のご趣味?の梵鐘について書いていただきました。前号でご連絡いたしました「真宗門徒の集い」は大勢の方にお越しいただき盛況のうちに終わりました。来年もまた皆様のご参加をお待ちしております。

